

# 今後の標準化とアカデミアとの連携に関する 検討会について

2026年2月2日

イノベーション・環境局 基準認証政策課

# 施策に対する実施状況

- 令和5年度のアカデミア検討会での議論を踏まえた中間取りまとめ（令和6年4月22日）で示した課題に対する施策について、令和7年度までにそれぞれ取組を実施。

## 中間取りまとめ（令和6年4月22日）で策定した施策

### i. 標準化活動への関与がインセンティブになるシステムづくり

- ・ 標準化活動への貢献の見える化
- ・ 標準化スキル・活動のキャリアパス導入
- ・ 標準化活動による事業成功時の良い評価
- ・ データ取得等のプレ標準化研究

### ii. 既存の教育システムとの連関をもった標準化教育システムづくり

- ・ 企業側人材ニーズの把握
- ・ 外部人材によるOJT
- ・ 標準化スキル・活動のキャリアパス導入 (i)
- ・ 規格開発に係る役割の多様化定義

### iii. 学際的な議論の場づくり

- ・ 外部機関の活用
- ・ 海外人材の活用

### iv. 学際的な知見共有の場づくり

- ・ 企業・産業戦略として機能した標準化事例の共有

### v. 標準化研究の推進

- ・ 標準化活動への貢献の見える化 (i)
- ・ 企業・産業戦略として機能した標準化事例の共有iv)
- ・ 規格開発に係る役割の多様化定義 (ii)
- ・ 社会科学系の論文化（技術系と共同執筆）

## 令和7年度までに実施した主な内容

- ・ **大学関係団体や個別大学に対する標準化活動の評価制度等への取込のための働きかけ (i,ii)**  
大学関係団体（公立大学協会、国立大学協会、私立大学協会、私立大学連盟）に加え、個別大学に対しても、先行事例として早稲田大学や産総研の評価方法を紹介。トップダウン・ボトムアップの双方向から標準化活動の評価を促進。
- ・ **researchmapへの標準化活動の登録方法を掲載 (i,ii)**  
文科省及びJSTへの働きかけにより、researchmapのFAQや利用者マニュアルに登録様式を記載。標準化活動に取り組むアカデミア人材の貢献を可視化するプラットフォームを整備。
- ・ **戦略人材及び専門人材パイロットプログラムを実施 (ii,iv)**  
筑波大学及び長岡技術科学大学において、それぞれ戦略人材及び専門人材パイロットプログラムを実施。長岡技科大については令和7年度から自走。
- ・ **産業分野別（化学分野、機械産業分野）の講座を実施 (ii,iv)**  
パイロットプログラムにて産業分野による標準化のとらえ方の差異が見られたため、令和7年度は産業分野別（化学分野）の講座を実施。
- ・ **大学における講座設定ガイドラインの作成 (ii,v)**  
パイロットプログラムにて大学講座設定時のシラバス作成能力の不足が課題となったため、令和7年度は和歌山大学に委託しガイドラインを作成。
- ・ **学会での標準化に関するセミナー等を実施 (i,iv)**  
学会・大学等において、標準化に関するセミナーやシンポジウムの開催支援等を25件実施。
- ・ **外部人材活用を目的とした標準化人材データベースSTANDirectoryを構築 (ii,iii,v)**  
「規格開発交渉人材」及び「知財・標準化一体サポート人材（弁理士）」の情報を検索可能。各人材のコンタクト先や、ISO/IEC等の標準化活動経験、対応可能な支援内容等を一覧で表示。160名超の人材情報を公開（2026年1月末時点）。本データベースを活用し社内講師を探した等の事例あり。
- ・ **JIS規格文書への学術論文の記載について (i,v)**  
JIS規格文書に参考文献として学術論文を記載することが可能な旨を国内審議団体や学会等へ周知。参考文献として明記することで、アカデミア人材の標準化活動実績や規格文書への貢献を可視化。

# 令和8年度以降のアカデミア検討会について

- 令和8年度以降は、これまでの取組を普及・浸透させることに注力し、フォローアップを行っていく。
- 「標準化とアカデミアとの連携に関する検討会」としては今後は当面年1回程度の開催を予定。

	～令和7年度	令和8年度～
	これまでの主な取組	普及・浸透に向けて
STANDirectory	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データベース構築（規格開発・交渉人材、弁理士）</li> <li>・160人を越える標準化人材の登録</li> <li>・社内講師への活用等、複数の活用実績</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アカデミアや企業、他省庁関係の標準化人材の登録等による、データベースの内容の更なる充実</li> <li>・知財・標準化一体サポート人材（弁理士）の登録数増加等による、データベースの内容の更なる充実</li> <li>・データベースの周知活動と活用事例の紹介等の利用促進</li> </ul>
学会連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学会等に働きかけを行い、2年間で25団体で標準化に関するセミナー、シンポジウム等を実施</li> <li>・情報連絡会の立ち上げに向けた、国際標準化活動に関連する学会のネットワーキング構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アカデミア国際標準情報連絡会（仮称）をプラットフォームとした情報共有等の実施</li> <li>・横断型基幹科学技術研究団体連合に設置された「標準化とアカデミアとの連携プラットフォーム形成調査研究会」と連携</li> <li>・研究成果の発表の場や査読委員会の設計を検討予定</li> </ul>
標準化教育の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦略人材及び専門人材のパイロット教育プログラムを実施</li> <li>・シラバスの作成能力の不足が課題としてあがったため、大学における講座設定ガイドラインを作成</li> <li>・産業分野別（化学、機械産業）の講座を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各大学での標準化に関する講座新設、拡充、見直し等とその際のシラバス活用の普及啓発</li> </ul>
アカデミア人材の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・標準化活動の評価制度等への取込のため、大学関係団体・個別大学への働きかけを実施</li> <li>・researchmapへの標準化活動経験の記載等、標準化活動を可視化する環境を整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き大学関係団体・個別大学への働きかけを実施</li> <li>・文部科学省とも連携し、科研費の説明会にてresearchmapへの標準化活動経験の記載について周知</li> </ul>